

令和3年度第1回岩手県政策評価専門委員会

(開催日時) 令和3年7月26日(月) 9:30~12:00

(開催場所) エスポワールいわて 3階 特別ホール

1 開 会

2 議 事

(1) 令和2年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について

※ 情報提供：復興推進プランの施策体系・事業に基づく令和2年度の進捗状況

(2) その他

3 閉 会

出席委員

吉野英岐専門委員長、斉藤徹史副専門委員長、市島宗典委員、工藤昌代委員、
竹村祥子委員、西田奈保子委員

欠席委員

なし

1 開 会

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第1回岩手県政策評価専門委員会を開催いたします。

私は、事務局の政策企画部政策企画課の高橋と申します。

はじめに、委員の皆様の出席状況について報告いたします。本日はウェブ会議システムによる出席の委員を含めまして、委員6名全員の御出席いただいておりますので、委員総数の半数に達しておりますので、政策等の評価に関する条例の規定により、会議が成立することを御報告申し上げます。

次に、配付しています資料について確認をお願いいたします。本日お配りしている資料は、次第、名簿、座席表のほか、資料ナンバー1として、令和2年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について、表紙のほかに概要をA4判2枚で配付しています。説明書本体は別冊として配付しています。資料ナンバー2として、復興推進プランの施策体系・事業に基づく令和2年度の進捗状況の概要、資料ナンバー3として新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた政策推進プランの見直しについての資料を配付しておりますので、御確認ください。

また、本日の会議の公開、非公開についてですが、意思決定の過程における審議であり、未成熟な情報を扱うため非公開での開催としておりますので、併せて御報告申し上げます。

それでは、条例の規定により、会議の議長は専門委員長が務めることになっておりますので、以後の進行は吉野専門委員長をお願いいたします。

2 議 事

(1) 令和2年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について

※ 情報提供：復興推進プランの施策体系・事業に基づく令和2年度の進捗状況

○吉野専門委員長 最初に、リモート参加の委員のために、会場の状況をお伝えしますが、こちら側に市島先生がいらっしゃいます。そして、反対側に工藤委員がいらっしゃいます。さらに、事務局席には、今、回していますが、なかなか全員は映りづらいのですけれども、30名以上の事務局員が実はたくさん来ていらっしゃって、この現場は30対3でやっているような感じで、すごく心細いのですけれども、リモートで御参加の先生が積極的に御協議に参加していただくことで、うまく会を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、早速議事に入りますので、お手元のペーパーを御覧ください。議事の(1)について御説明をいただいた後に、御質問、御意見をいただくことになっております。

それでは、令和2年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について、事務局から御説明をお願いします。

〔資料No.1 説明〕

○吉野専門委員長 ありがとうございます。次第上は、続いて資料2についても説明いただくことになっておりますので、情報提供ということになるということですが、復興推進プランの施策体系・事業に基づく令和2年度の進捗状況について、復興防災部さんから説明をお願いします。

〔資料No.2 説明〕

○吉野専門委員長 ありがとうございます。ただいま資料2に基づきまして、復興施策の進捗状況について御説明いただきました。

それでは、再び資料1に戻りまして、本題の主要施策の成果に関する指標につきまして、委員の皆様から御質問並びに御意見をいただきたいと思います。特に順番は決めておりませんでしたので、御質問ある先生からどんどん手を挙げていただければ、こちらで御指名したいと思いますので、よろしくお願いたします。

では、工藤委員、お願いします。

○工藤委員 10の政策分野の具体的な推進方策の状況の中の教育というところで、ちょっと御質問というかあれなのですが、実際Dになったものの中の一つとして、こちらの厚い方でいうと86ページの方に書いてあるルールを守って情報機器、スマートフォン等を利用することが大切だと思う児童生徒の割合というのが目標に達しなくてDになったというのがあるのですが、たしか去年、各中学校とかですか、タブレットが配付されて、活用するというのが国から、去年のうちに入れなさいみたいな形で各学校に導入されたかと思うのですけれども、導入されて、なおかつ、だけれども教育というか、そういう指導というのが伴わない形で配付されているということなのでしょう。

○吉野専門委員長 御担当の方いらっしゃれば、ただいまの質問についてお分かりになるところでお答えいただきたいと思います。よろしいですか。お願いします。

○渡辺教育委員会事務局教育企画室教育企画室長兼教育企画推進監 教育委員会でございます。御質問ありがとうございます。

国におきましては、G I G Aスクール構想ということで、G I G Aスクール構想は小中学校が対象なのですが、1人1台パソコンの整備ということで進めてございます。それを令和4年度までの計画だったものが、コロナの影響もあり、前倒しで推進するというところを受けて、各市町村においても昨年度端末の整備を進めたところでございますが、昨年度中に整備をするということだったのですが、実際のところまだ児童生徒の手に渡っていない市町村もございまして、どうしてもパソコンの需要が多くて納入が間に合わないとかということがございまして、市町村や学校においても、実際に配付されたのは年度後半のところほとんどだったと思います。

端末の配付に伴って、機器の使い方については各学校で指導はしてございますが、それとの直接的な関わりというのはあまりないものと考えてございます。これにつきましては、ルールを守って情報機器を利用することが大切だと思う児童生徒の割合ということで、端末の配付に伴ってもやっていますが、もともと情報モラル教育というのが重要だという考えの下進めていたところでございます。86ページのところの特記事項にも書いてございますが、高い水準を維持してございますが、こうした取組は継続性が必要であり、浸透するのに時間を要するというところで、これを継続して推進することによりまして、徐々にというか、目標達成に向けて上がっていくものと考えてございます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。90%近くは行っているのですかね。ただ、目標の計算式に入れてしまうと減になるという。ありがとうございます。

そのほかお気づきの点の点、御質問があればいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

では、斉藤委員、お願いします。

○斉藤委員 斉藤です。オンラインから失礼いたします。

ただいま報告していただきました部分のⅦの歴史と文化のところのコメント欄を拝見いたしますと、いわての文化情報大事典のホームページの訪問者数そのものが減ったということなのですが、これはどうしてホームページの訪問者数が減ったのかということをお聞きしたいのですが、いかがなものでしょうか。

○吉野専門委員長 では、今の御質問の御担当の方いらっしゃいますか。では、お答えいただきたいと思っております。

○佐藤文化スポーツ部文化スポーツ企画室企画課長 文化スポーツ企画室の佐藤と申します。御質問ありがとうございます。

達成度がDの理由でございますけれども、特記のところにも書いておりますが、当該大事典の各種SNSに動画等のコンテンツを掲載してございますが、ホームページを訪問せずに情報にアクセスできる構成ということで、令和元年度にリニューアルしたことによりまして、結果達成が目標まで至らなかったというところでございます。

○吉野専門委員長 斉藤先生、いかがですか。

○斉藤委員 そうしますと、訪問者数の減少というのは、コロナとは関係ないというようなことなのでしょうか。

○佐藤文化スポーツ部文化スポーツ企画室企画課長 はい、コロナとは関係ないというところでございます。

○斉藤委員 私がイメージしたのは、コロナの影響がなければ観光客がたくさん来県して、それによって訪問者数は増えるのだけれども、コロナの影響であまり観光に行けないものですから、ホームページへのアクセスも少なくなったのかなと思ったのですけれども、そういうわけではないのですね。

○佐藤文化スポーツ部文化スポーツ企画室企画課長 先生おっしゃるとおり、そういう側面もあるとは思いますが、当部で分析しているところでいうと、コロナというよりも、令和元年度にリニューアルしたときに、利便性を向上するためにカテゴリー数や各項目のページ数を削減してリニューアルしたことによりまして、アクセスする機会が減ったのではないかと分析をしております。

○斉藤委員 ありがとうございます。

○吉野専門委員長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

そのほか御質問いかがでしょうか。どの項目でも構いませんので、お気づきの点があればお願いしたいと思います。

では、市島委員、お願いします。

○市島委員 資料1、全体的なところでちょっと申し上げたいと思います。

今年度、今回の報告書、説明書については、資料1の2の内容と構成のところにありますように、2019年度にスタートしたいわて県民計画の達成状況を示すものだとということで、今回が2年度目だと思います。それで、口頭の御説明の中では、昨年度との比較が述べられていたのですけれども、この資料の中にも昨年度との比較があった方がいいのかなと思いました。それが1点目です。

それから、2点目は、資料1の一番右下の(3)、最終目標に対する進捗状況の表があると思うのですけれども、これは昨年度も似たようなことで論点になっていたかと思いますが、左側の(1)のいわて幸福関連指標の達成状況については実数が入っていて、右側に実数が入っていないので、実数を入れたらよろしいのではないかなと思いました。結局指標の数が少ないとパーセントが大きく変動してしまうので、それを入れた方がより親切なのではないかなと思いました。

それから、次のページの4の10の政策分野の具体的な推進方策の状況についてです。こ

れも昨年度との比較があった方がいいのかなと思いました。

それから、新型コロナウイルスの関係で、確定できないものがあったりということは当然のことかと思いますが、10の政策分野のCとDの理由がそれぞれ書かれているのですが、ここは新型コロナウイルスの影響ではないものを記述の方がいいのではないかなと思いました。新型コロナウイルスの関係でいろんな、対面のものができないとか、人の動きが抑制されているのでということよりは、むしろそうではないもので、ですから先ほどの歴史、文化の中、ホームページの訪問者数のように、新型コロナウイルスに関係のないものを載せた方がいいのかなと。新型コロナウイルスの関係ということとは当たり前と言えば当たり前になってくるので、政策評価するということでは、コロナのせいであろうというよりは、むしろそれが関係ないところでこういったところに問題があったという方が報告書としては親切なのではないかなと思いました。

以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。資料の作り方というか、見せ方のお話でしたけれども、これは評価課長、お答えされますか。

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 御意見ありがとうございます。まず、1つ目の昨年度の比較を入れてはどうかということでもございましたけれども、本体の方の一番最後の表のところには、各指標毎の昨年度の比較というのは入れてございましたけれども、全体につきまして、昨年度との比較というところにつきましては、特に記載していないということでもございました。こちらは、昨年度との比較というよりも今年度の状況を分かりやすく説明したいという意味でそういった形にしてございましたけれども、この点につきましてはもう一度検討させていただきたいなと思っております。

それから、2点目の実数を入れてはどうかということでもございましたけれども、こちらにつきましては、昨年度そういった御意見をいただきまして、それで表のところ、昨年度ですと割合だけを記載していたのですが、今回指標数を追加させていただきまして、指標数と割合という両方が分かるような形にいたしました。

具体的推進方策指標につきましては、この表を概要版には載せていないところなのですが、本体の方の概要のところ、3ページになりますけれども、3ページの上のところの表が具体的推進方策指標の表となっております。こちらにつきましては昨年度は確か割合だけだったと思うのですが、こちらには御意見を受けまして、指標と、それから括弧書きで割合ということで、両方分かるような形で改善させていただいたというようにございます。

それから、3点目の2枚目の10の政策分野のCとDの割合のところの指標でございますけれども、こちらにつきましてはいずれそれぞれの指標につきまして、コロナの影響があったかなかったかということと関係なく今回載せていただいております。それにつきましては、コロナについても、今回コロナの事情によってこうなったというのが指標としての実態ではございますので、ほかの指標とそこの部分は同列に扱わせていただいたということで、一応そういったコロナ以外の部分だけ載せるというような形ではなく、それぞれの分野でフラットにDの部分を選定させていただいたということになっております。

こちらにつきましては、本体の部分に、コロナの影響の部分については特記事項のところに、コロナの部分について、どういう影響があったかというところは丁寧に記載するような形を取っております。例えば49ページで、一番下のところのイベント来場者数の指標の特記事項などについては、新型コロナウイルス感染症の影響によりDとなりましたということですが、ただ代わりにオンライン参加が可能な形態で開催しましたといったような形で、コロナがあつてDとなったのだけれども、こういった影響を最小限に抑えるような取組もしましたというように丁寧に書くような形で記載させていただいたところがございます。いずれ今回コロナについても、昨年度の指標を見る上では重要な影響の一つと捉えておりましたので、この概要版の2枚目の指標につきましては、コロナの影響でDになった指標も含めて選定させていただきたいと、記載させていただきたいと考えております。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。そのほかの皆様はいかがでしょう。では、竹村委員、お願いします。

○竹村委員 今コロナの影響の話が大分出ておりましたけれども、コロナの影響で、例えば教育のところで、いろいろと解釈はあると思いますが、例えばコンピューター、パソコンの前倒しで納入というような話で、現実的にはコロナの影響で進んだ項目もあると思います。よい影響であるか悪い影響であるかは、今年度限りで評価するのはなかなか難しい事象だと思います。もう一つは、最終年度が令和4年度という、もう2年たったところが最終目標だとすれば、例えば観光とか、自然環境、歴史文化のような、年度毎に着々と目標を達成できるというわけにはいかないが、最終年度までには何とか遅れを取り戻せると期待できる項目もありますし、今年度の評価をあまり上がった下がったのところに力を注がなくてもよいと思います。特記事項にそのところの解釈だけを載せていただければ、いいのかなと考えております。もう一つは、最終年度には影響がどういう形で解消されたかというような視点も入れた方がいいのかなと今思ったところです。以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。これは評価課長。

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 御意見ありがとうございます。まず、1点目の進んだところもあるというところのお話につきましては、まさにそのとおりでございます。こちらにつきましては後ほど資料の3で御説明させていただこうとは思ったのですが、2月に御報告させていただいたとおり、コロナの影響について、指標の扱いについてどうするかということも検討してございまして、6月の総合計画審議会に報告しているところではあるのですが、各指標についての調査を行ったところ、やはり影響が広範に及ぶということございまして、具体的推進方策指標については、目標値の見直しの作業をやるということ今やっているとございまして。

いずれ先生がおっしゃるとおり、今回特記事項のところに詳細な説明については記載させていただきましたので、今回CとDのところの分析ということで特記事項のところには

書いてありまして、AとかBの進んだというところの指標については特に記載していないところではございますけれども、そちらにつきましては、そういった指標の見直しの中で当然見ていくということはありますけれども、今回は実績の測定ということでございますので、これから11月に向けてやっていきます政策形成支援評価のところ、コロナの影響で上がった部分とか、そういったものも含めて、取組の分析を詳細にしまして、課題とか、今後の方向性を検討していくということにしていきたいなと思っております。

最終年度にこういった形で対処されるかというようなところのお話につきましても、いずれ政策推進プランの先ほどの見直しの中で、コロナの影響でその指標が進んでいるというような部分につきましても、遅れている指標と併せて総合的に検討していくということにしておりますので、そういった作業の中で検討していきたいと考えております。

○吉野専門委員長 竹村先生、よろしいですか。

○竹村委員 どうもありがとうございました。

○吉野専門委員長 そのほか御質問の項目があればお願いします。

では、西田委員、お願いします。

○西田委員 よろしく申し上げます。2つございます。

1点目は、全体に関わることなのですけれども、指標として、研修実施とか参加者、受講者数などがかなりあって、コロナの影響を受けやすいということが今回のお話を聞いてよく分かったのですけれども、個別の指標に関する対応については、先ほどの若者のイベントのことなどでどういう対応をなさったかというのは丁寧に書いてあるので分かるのですが、全体として、対面で計画していたものを遠隔、あるいは遠隔併用で実施したものの割合というのが大体どのぐらいなのだろうかというのがちょっと気になりましたので、もし把握しておられれば教えていただきたいと思いました。これが1点目です。

すみません。1点目に付随したことで、割合のほかに、例えばこういった対象者とか、こういった分野で遠隔への変更がしにくいのかという、この点についても把握しておられれば教えていただきたいと思いました。よろしく申し上げます。

それから、全然別の話なのですが、参画の分野のところ、震災関係のNPOが解散しているという説明が書いてありました。この10年で震災関係のNPOで育った人材というのも結構いらっしゃるのではないかなと思うのですが、参画の別の指標のところでは、女性の専門人材が少ない分野があって、なかなか女性の専門委員が見つからないというような御説明、これは190ページとか191ページの辺りですけれども、あったり、あと市町村の防災会議への女性参加がゼロの5町村で、ほかの市町村の取組事例の情報提供が行われたといったように、実施に当たって工夫なさっている様子も説明文から分かりました。

そこで、すみません、ちょっとまとまりませんが、お聞きしたいのは、女性の専門人材が少ない分野があるということですが、具体的にはこういった分野なのかということ、それからほかの市町村の取組事例の情報提供を市町村防災会議の女性委員の割合がゼロのと

ころについてなされたということですが、こういった内容の情報提供をなされたのかというあたりについて、御存じでしたら教えていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○吉野専門委員長 それでは、大きく分けて2つの点ですけれども、まず1つはリモートへの代替で行われたイベント等についての数等は把握されているのかということや、こういった分野でそれがなされているかと、あるいはできない分野はどこなのかということについての把握をされているかということですが、これはどこからでしょうか。評価課長。

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 まず、把握しているかどうかというところですが、今回の実績測定の部分については、そういった形での整理というのはまだしていないところではございました。ですが、後ほど説明しようと思っておりました資料3の方に、ちょっと御覧いただければと思うのですが、よろしいでしょうか。資料3の1枚目の下の方のところに、タイプ別の状況ということで、①としまして、コロナ禍を契機に代替の取組や工夫などが期待される指標ということがございまして、こちらが今はオンライン等を想定していない指標になってございますので、それについてオンラインを含むというような形で指標を置き換えようというような形で、ここに書いてあります子ども・若者支援セミナー受講者数とかICTフェア来場者数といったような指標ございますけれども、そういったものは置換えが必要だということで、こちらについては今回の実績が出る前の調査ではありますので、まだ今後精査が必要なのですけれども、この調査においては22指標で割合としましては4%ほどです。こういった形でオンライン等の対応が必要だというような、調査に対する結果が出てございます。

もう一つ、こういった部分で遠隔が難しいかというところで、一般的にセミナーのところを見ていった中で1つ要因としてあったのが、高齢者等を対象としている研修会とかセミナーの場合に、やはりなかなか機器の対応の部分のところで、オンラインでのそういった研修などが難しいというようなものが見られたと、我々のところで見ただけではそういったものがございました。

あともう一つ、資料3の中で、3ページになりますけれども、資料3の3ページのIIの家族・子育て分野のところですが、指標としましては動物愛護普及啓発行事の参加者数というような指標を取っておりますが、こちらについては一番右のところに理由を書いておりますけれども、中止や規模縮小により大幅な減少になったと。犬のしつけ方教室など、行事の性質上オンラインへの移行が困難なものも多く、当面厳しい状況が続くものと見込まれるということで、こちらは置換えではなくて、指標の目標の下方修正というような形で、今のところ出てきているような指標もございまして。こういったところがなかなか遠隔というのは難しいなという形で把握しているものでございます。

○吉野専門委員長 では、後ろから手が挙がっていますので。

○尾形環境生活部環境生活企画室企画課長 環境生活企画室の尾形と申します。先ほど女性の関係で、資料の190ページの政策項目49のところの指標名が審議会等委員に占める女

性の割合のところは御指摘の部分かと思いますが、年度目標値 40%に對しまして 36.9%ということで、D評価ということになっておりました、こちらの方の理由といたしまして、改選のタイミング等もあるのですけれども、高い専門性が求められる分野において女性の専門人材が少ない審議会等があったということに関しての御質問かと思いますが、県の審議会等委員に占める女性の割合の向上については、これまでも取組の推進はしていたのですけれども、近年この割合というのは 30%台後半でずっと推移しているところです。

女性の割合の低い審議会等に個別にヒアリング等を行っておるのですけれども、その聞き取りによりますと、構成メンバーのうち公募委員や消費者、利用者などの分野では、女性の選任は比較的容易だというお話はいただいておりますけれども、関係団体及び行政機関などの役職員ですとか、医師ですとか、弁護士、大学の教員等の専門分野においては、なかなか推薦できる女性が少ないという、そういう声をいただいております。

このため、女性の登用拡大に向けて、官民連携協働組織でありますいわて女性の活躍促進連携会議というのがございまして、これに行政も入っているのですけれども、経済団体ですとか、金融機関とか、あと農林水産関係ですとか、女性活躍のNPOなど、そういったような会議がございまして、それらの活動を通して将来指導的地位に成長していく人材を増やす取組を各方面に協力をお願いしながら、引き続き審議会等に、役職員に限らない幅広い人選ですとか、推薦団体の見直しですとか、そういったようなことを含めまして、計画的に女性の登用、育成に向けて働きかけていくという、そういう取組を行っていくところです。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。もうお一方手が挙がっています。

○高橋復興防災部復興危機管理室企画課長 復興防災部復興危機管理室の高橋でございます。市町村の防災会議の女性委員のいない市町村に対して、どういった情報提供をしたのかという御質問についてでございます。昨年度女性委員のいない市町村に対してヒアリングを行ってございまして、そのときに出てきた主な意見としましては、防災会議の委員を充て職にしている市町村が多くて、女性委員のいない市町村についても基本的には充て職をお願いをしているという回答がございました。その充て職の対象としましては、各団体の代表者さん、市町村の関係課の長であったり、あるいは地域の警察や消防の長であったりといった災害関係の関係する団体の長の方をお願いしているということで、そういった方だとなかなか女性の方がいらっしゃらなくて、そうしたこともあってなかなか難しいというような回答をいただいております。

進んでいる市町村の取組としましては、そういった充て職とする場合におきましても、婦人消防協力隊の代表の方でありますとか、あるいは民生委員の方、入っていただきますよといったところを御紹介しているということであります。それから、市町村によってはそういった充て職にこだわらないでやっているところもあるということでございまして、そういったところの紹介をしております。そういった話をしましてからは、今年度に入ってから、例えば看護師さんですとか、保健師さんですとか、そういった方に入っていただくかなということを検討しているというお話も伺っているところでございます。

以上でございます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。一応1点目と2点目にお答えいただきましたけれども、西田委員からは追加、補足ありますか。

○西田委員 よく分かりました。ありがとうございます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

そのほか事務局サイドでも所管しているところでは、コロナの中でもリモートを積極的に行って参加者を確保した、あるいはイベント自体を開催したというようなことをやっていらっしゃるようなところがあれば、この際ですので、委員に情報提供ということでお願いできればと思いますが、どなたか。何とか乗り越えてリモートを使いながらおやりになったことはありますか。特によろしいですか。では、また後でお話が出ればお聞きしたいと思います。

そのほかはよろしいですか。

では、工藤委員。

○工藤委員 今のコロナの関連で、オンラインで参加するというのは、歴史、文化のところで、ウェブのアクセス数がというところでDランクになったというのがあったのですが、ちょっと見てみると、先ほどの5つ目の中で、ホームページに直接アクセスするのではなくて、ユーチューブとか、そういうところに直接見られる環境があるために、本サイトのアクセス数がいかないということをおっしゃられたと思うのですが、これからカウントするときに、ユーチューブとかSNSに対するアクセス数を考慮してもいいのではないのかなと思います。特に何かちょっと拝見すると、メインとなるコンテンツというか、動画としてのコンテンツのアクセス数、かなり本数も出しているようなので、PRするという意味合いでは、このサイトにアクセスする数だけをカウントするよりかは、実際それは映像を見ていただいて理解を深めていただくというのがまず一つの目標、目的だと思いますので、是非そういうところも配慮して、目標値に入れていくというのも一つの手かなと思いました。

○吉野専門委員長 御提言ありがとうございます。

そのほかはよろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 では、私の方からは事前に県庁から情報提供もいただいて、比較的D項目の多かったところについてちょっと御質問をさせていただければと思って、資料を追加で少し配ってあるかと思うのですが、本体からのコピーですけれども、21番、23番、26番、49番、50番についてコピーを作っていただいて、別刷りで委員の先生方の前にはあるかと思えます。これは、居住環境・コミュニティの分野と参画の分野について抜き出した資料で、比較的Dが多いので、ここの中から少し聞いてみようかなと思ったものでございます。

最初に、居住環境・コミュニティの 21 番なのですけれども、よくよく見ると、最初気がつかなかった 106 ページに、水道基幹管路の耐震適合率というのがあまりよくないのです。これは特記事項は書いてあって、分母が増えたので、押し下がったために D になったということで、背景は分かりましたが、所管していらっしゃるところは今日おいでになりますか。このままだと分母が大きいままなので、ずっと D になってしまわないかというおそれもあるのですが、この辺りについては今後の見込みはどのような感じなのでしょう。

○尾形環境生活部環境生活企画室企画課長 水道基幹管路の耐震適合率の割合の仕組みなのですが、水道の基幹路の耐震化率、耐震の延長を指標として表しているのですけれども、現状として今簡易水道と上水道というのがございまして、当面最初に指標設定したときは上水道の管路延長の割合を示す指標だったものなのですけれども、水道事業の方で、簡易水道と上水道の統合化という、その事業を国の政策で進めております。簡易水道というのは、どちらかという上水道に比べて耐震化率がもともとよくないものだったのですけれども、それを市町村毎で、簡易水道もあれば上水道もあるという中で、上水道に統合していくという、そういう事業を行っていたところ、その延長として、耐震化率の元がよくない簡易水道が分母に入り込んでくる関係で、それでなかなか指標が上がらないという、そういう事情があるものです。

ですので、これに対して、今のところは御指摘のとおり、このままいけばどう頑張ったってなかなか D から脱却できないような状況になっているところではございますが、こちらとしては国の事業もございまして、その事業の進捗も見ながら、当面簡易水道も含めまして全体の耐震化率はやっぱり上げていかなければならないという、そういう考えもありますので、当面はこの考え方に従って事業を続けていきたいと考えているところでございます。

○吉野専門委員長 指標の設定自体の見直しは、特には考えていないというか、目標値、パーセント。結局なかなか達成できないような今のお考えというか、事情だと思のですが、目標値が高いままですので、結局途中で意味が少し変わってしまっているということですね。簡易水道も入ってきたので、それを含めた形での計算に変えているとなるところという数字になってしまうという、そこは別に指標は変えないで、このまま行くという。

○尾形環境生活部環境生活企画室企画課長 現在のところは、そのように考えております。

○吉野専門委員長 では、ちょっと悪い数字が出る可能性が高いですけれども、甘受するしかないということですか。

○尾形環境生活部環境生活企画室企画課長 ただ、次のまた期間設定のときには。

○吉野専門委員長 令和 5 年以降では変えるという。

○尾形環境生活部環境生活企画室企画課長 ええ。またそのときは、この状況も含めて検

討させて、御相談させていただきながらとはなるかと思えます。

○吉野専門委員長 評価担当と相談してやった方がいいかなと思えました。ありがとうございました。

それから、同じ資料の114ページ、これは移住、定住で、ホームページはかなりよかったです。相談件数は低いと。これは対面の相談件数だけを想定しているような形だと思うのですが、オンラインでは結構増えているということですが、この辺のオンラインはどのくらいだったかというのは分かるのでしょうか。さっきの若者の方はオンラインも含めるとこうなりますというのが出ていた数字なのですが、ここはいかがでしょうか。むしろここが増えないと、今こういう御時世なので、岩手県どうなのだという御意見も出るかもしれませんが、いかがでしょうか。

○伊五澤商工労働観光部商工企画室企画課長 商工企画室の伊五澤と申します。御質問ありがとうございます。

移住相談の件数の内訳、対面とオンラインの内訳の件でございますけれども、実績がこういう結果になったことにつきましては、先生お見込みのとおり、対面でのイベントができなくなったということが大きく影響を受けております。一方で、オンラインですけれども、例えば県の方ではオンラインのイベントに切り替えて開催したこともあって、県の相談件数の実績は、昨年度に比較しておおむね横ばいということになっておりますが、市町村の実績は対面に比べるとオンラインがなかなか進まず、総数は減少し、全体として去年は相談件数が若干減ったということになっております。

以上でございます。

○吉野専門委員長 これは、ではオンラインも入っているのですね、数字の中に。

○伊五澤商工労働観光部商工企画室企画課長 オンラインも入っております。

○吉野専門委員長 分かりました。

○伊五澤商工労働観光部商工企画室企画課長 ただ、オンラインも参加者数に回線の都合で上限を設けたので、ぐっと増えるということは残念ながらなかった状況でございます。

○吉野専門委員長 ただ、関連してホームページなんかはかなり増えているように見えるのですが、アクセス数でしょうか、Aで。全然変わらないのですけれども、かなり増えたと見えませんか、これ。

○伊五澤商工労働観光部商工企画室企画課長 ええ。ですので、ホームページアクセス数が増えているというのは、やはり移住、定住に関心を持つ人自体は増えているとは受け止めておりますが、残念ながらコロナの関係で外出制限、県境を越えての移動制限などにより、実際の移住、定住者数になかなかつながないと受け止めております。

○吉野専門委員長 ここを市町村さんにも頑張ってくださいとか何かで、やっぱりむしろ来なくても相談はできますよというような、あるいは特定のイベント会場に行かなくても相談はできますよということをやまくつくっていくと、これだけホームページのアクセス数が増えているということは関心が高いのではないかと思いますので、AとDに分かれてしまったのがよくないのかなと。むしろ両方ともかなり伸びていますよと体制整備を進めるとかがあると、かなり関心の高い分野ではないかと思いましたが、Dの背景は分かりましたけれども、ぜひ来年度以降、少し手を入れていただければなと思いました。市町村さんの方と協力して進めていただければなと思いました。

○伊五澤商工労働観光部商工企画室企画課長 ありがとうございます。

○吉野専門委員長 すみません。もう一つですけれども、115 ページの地域おこし協力隊もDなのですけれども、これはオンラインをやっていないからこういう形になるということなのでしょうか。担当、いらっしゃいましたらお願いします。

○大越ふるさと振興部ふるさと振興企画室企画課長 ふるさと振興部のふるさと振興企画室、大越と申します。御質問ありがとうございます。

こちら、地域おこし協力隊等を対象としたセミナー参加者数ですけれども、セミナー自体は予定を5回をしているうち1回のみを対面としているのですが、昨年度におきましてはオンラインでも開催をしております、オンラインの参加者を含めた実績値は、累計ですけれども、629人ということになってございます。実地の方が12人の参加と、オンラインがこれは336人が令和2年度の実績という形になってございます。

○吉野専門委員長 分かりました。そうすると、この293というのは対面の方のみ。

○大越ふるさと振興部ふるさと振興企画室企画課長 ええ、そのとおりでございます。

○吉野専門委員長 オンラインで参加した人は、セミナー参加にならないのかと言われると難しいです。想定していなかったことだったので、ちょっとここはいずれ県の中で、オンライン参加というのを数値としてどう扱うかというのも恐らく評価の方から一定のガイドラインみたいなものが出てくれば、あるところは扱わなかったり、あるところは扱ったり、あるところは書いてあったり、書いていなかったりというのが多分避けられるような。特に令和3年はそういうことがもっと起こると思いますので、ぜひそこは県で全体的に統一した数字を出せるような仕組みの方がより正確、現状把握できるかなと思って今考えました。ありがとうございます。

23の方もなかなか難しいところだったのですけれども、元気なコミュニティ特選団体、112ページもちょっと下がったような形でしょうか。地域運営組織数もちょっと下がったような形ですけれども、地域の取組についてはなかなかオンラインが進みづらいような印象を持っているのですけれども、こういうコロナ禍の中での地域の活動支援ということに

については、何か県の方では令和2年のときからも含めてお考えはあったのでしょうか。いかがでしょうか。

○大越ふるさと振興部ふるさと振興企画室企画課長 すみません、引き続き。

○吉野専門委員長 お願いします。

○大越ふるさと振興部ふるさと振興企画室企画課長 令和2年度につきましては、自治会や町内会の活動を支援するため、今お話のありました元気なコミュニティ特選団体の認定等により、持続可能なコミュニティー活動の促進とか、地域運営組織の育成、オンラインを活用した地域おこし協力隊等の地域コミュニティー活動を支える人材の育成等に取り組んだというところでございます。

いずれコミュニティ特選の団体につきましては、市町村の推薦ということもございまして、コロナ禍でなかなか開催は難しいのですが、セミナーとか、そういうことを通じて意識の醸成を図っていききたいと考えているところでございます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

それから、すみません、次の26の276番の県立文化施設の入場者数、これは利用者数ですので、下がるのはやむを得ないところではあるわけですが、こういったことでも各施設さんは、それに代わるようなオンラインでの何か情報提供とか、イベントに値するようなものはなさっていたのでしょうか。

○佐藤文化スポーツ部文化スポーツ企画室企画課長 文化スポーツ企画室の佐藤です。令和2年度入場者数ということで、イベント等の数に左右されるというところがございまして、昨年度はオンラインで取り組んだものもございしますが、基本的に感染症対策ということで、各施設、消毒液とかサーモグラフィーカメラの設置などをしております。それで県民の皆さんに安全、安心の利用ができるように環境整備を行ったところでございます。

昨年9月からなのでございますけれども、文化施設の利用を促進するためということで、県民会館と公会堂の方の利用料金の2分の1を減免するという措置もしてきてございます。そういう取組もしてきておりますが、最終的にはやはり一時休館、コロナということで公演等の中止が相次いだということで、達成に至らなかったというところでございます。

いずれ当部としてもオンラインでの取組は引き続きやって、昨年度も実施しておりますが、今年度も実施してございまして、本来現在の指標上はそういうものカウントされるものではございませんので、その辺は担当部と協議しながら考えていきたいなと思っております。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

では、もう一つ、参画の方で、49番の参画のところではございますけれども、190ページ頭のところの指標ですが、ほかのところはもう既に御質問があったので、お答をいただいておりますけれども、77番の労働者総数に占める女性の割合が引き続き低いというようにもお見受け

できますが、特記事項もあります、コロナの影響ではないとは思いますが、なかなか伸び悩んでいるということですが、何か補足があればお願いしたいと思えます。

○尾形環境生活部環境生活企画室企画課長 環境生活企画室の尾形です。労働者総数に占める女性の割合についてですが、目標値の39.6%に対して38.3%ということで、遅れの要因は、記載もごさいますけれども、長期的には増加しているのですけれども、依然として若年女性の県外就職が多いということが遅れの要因になっておりまして、具体的に年齢層別女性労働者数の推移というのを見ますと、20歳から24歳の女性の減少率がほかの世代に比べて最も大きくなっているというところでごさいまして、新規の大学等の卒業者の県外就職が増えているためと考えているところです。

ただ、全国と比較しますと、岩手県の38.3%に対しまして全国平均が35.8%ということで、岩手県は全国平均は上回っているというところでもごさいますが、それらの状況もごさいますので、女性の参画ということで、参画の分野で、項目が非常に悪いものに女性の項目が結構入っていると、先ほど御指摘もごさいましたので、女性の活躍のための事業者のセミナーですとか、いわて女性活躍企業等認定制度、そういったようなものの普及など、女性の活躍支援の取組によって女性が働きやすい環境づくりを進めるというような取組と、あと女性がそれぞれのライフステージとかライフスタイルに対応して活躍できるように、関係機関や関係部局と連携した取組を進めていく必要があるということで、先ほどもお話ししましたが、官民連携協働組織でありますいわて女性の活躍促進連携会議、そういったような会議で、女性の活躍支援についての機運醸成ですとか関係団体の連携強化を図って、女性の活躍しやすい職場づくりに努めていきたいということで考えてごさいます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。工藤委員は、県内の企業団体さんで、若い人の声を、情報提供とかをなさっていると思うのですが、若年層の女性の方の県外流出が高いという感覚はやっぱりお持ちですか。

○工藤委員 具体的にイメージがあるかというのと、ちょっと分からない。実際数字がちょっと分からないのでなのですが。

○吉野専門委員長 女子は残りにくいとか、男子は県内に残るけれども、来てくれるけれども、県内企業からいえば、そんなことはあまり感じないですか。

○工藤委員 県外に出たいという学生さん、割合的にはちょっと分からないです。でも、高校生の人たち、高校生と話をすることが、ちょっと機会があつて、高校生は地元に残りたいと思っている人が結構いるのだなと感じたことはあるのです。だから、多分進学をした後に何かチャレンジをしたいと思うとか、そういうのがあるかもしれないと思うのと、コロナでやっぱり都会に行くのが怖いという意見をちょっと聞くことはありました。だから、もしかするとこういうコロナがあることによって、県外に行くということを躊躇するという生徒も、もしかしたらどうなのでしょう、一定数いるということもあるのかもしれないというのは、ちょっと耳にするという感じです。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。今日御参加の委員の皆さんも結構東北地方の大学にお勤めの先生が多いので、若い人たちの意識というか、就業動向については間近で感じる先生方も多いと思いますけれども、斉藤先生は、若い女性の就業状況はどう受け止めていらっしゃるでしょうか。

○斉藤委員 ありがとうございます。本学の場合は、地元志向が強いものですから、そういった意味で山形県内に就職したいという学生が多いです。今御指摘がありましたコロナとの関係で見ますと、特にコロナだから首都圏に行くのは嫌だなというのはあまりないようです。やはり時期的にワクチンの方もありますし、この状況もいずれは収まるでしょうから、そういうことが何か支障になるようには感じていません。

ただ、あるとすれば就職活動においてなかなかやりにくいという、仙台や東京にも行きにくいとかということ、その辺のことは苦勞はしているようですが、これもいずれ収まるのかなと思っております。

以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。西田先生も福島大学に御勤務ですけれども、若年層の女性も含めて、就業状況、意識はいかがでしょうか。

○西田委員 統計的なところまではよく分からないのですが、福島大学の場合は県外出身者が全体の6割近くで、県内出身者は4割ぐらいというところなのです。就職のときに学生たちがどう動くかという、地元に戻っていくという傾向があります。それで、北関東から東北の学生たちが多く、元の出身地に戻っていくというパターンがかなりあるというのと、あとはやっぱり一定の数に関東に行きます。関東から福島大学に来ている学生はほぼいないので、そういう意味ではやっぱり関東への流出は進んでいます。男女で特別に差があるかというのはよく分からないので、すみません。

以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

竹村先生は、両方の大学を御体験されていますけれども、いかがでしょうか。

○竹村委員 今勤めている学科は2年生が最高学年なので、就職については具体的にはまだ分からないのですが、大学自体は小規模な大学でして、埼玉県の浦和美園という大型の住宅地の近くにあるところで、社会福祉士や保育士、小学校教員の養成ということで、ちょっと実績がある大学です。

それで、圧倒的に実習が大前提で、大学の試験を受けて、国家試験などを受けて、その後就職ということなので、もしかすると岩手県立大学の社会福祉の学部とちょっと似ているのかもしれませんが、関東の中にありますので、埼玉県を中心とした北関東の出身者が多く、自宅から通学する者が7割くらいですから、もう地元へほとんどが就職しております。東京都の方へ就職するかというと、それも思ったほどは多くないような状況で

した。専門の資格を活かして、着実に出身の地元に残ったという感じの結果でした。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。関東は強しというか、関東の人は関東に。ですから、東北の人の一部は関東にというような流れも若干あるような感じを総合して聞くと感じるどころですけれども、そうはいつでもそれでいいというわけでもないわけですので、やっぱり若年層の女性の流出が続けば、どうしても女性の労働力に占める割合が上がらないということもありますし、ひいては将来のことを考えると、やっぱり若年層女性の定着というのが大事は大事ですので、ぜひこの数字が何とか全体的には上がるように、特にこの要因が解消されるように進めて、特に力を入れて進めるところかなと思っていましたので、伺いました。ありがとうございます。

長々私の方からもいろいろ聞きましたけれども、ほかの先生方からも気がついた点、さらにはあれば聞きたいと思いますが、いかがでしょうか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 よろしければ、次の議題がありますので、次に進んだ後に、また最後お話があれば伺いたいと思います。では、ありがとうございます。

(2) その他

○吉野専門委員長 それでは、議題のその1は終わりましたので、その2に進みたいと思いますが、事務局の方から何かございますでしょうか。

〔資料No.3 説明〕

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 続いて、その他の2つ目ですけれども、こちらは資料は特になのですが、県民の幸福に関する分析部会についてですけれども、現在、岩手県総合計画審議会の県民の幸福感に関する分析部会におきまして、昨年度と同様、県民実感の変動要因等の分析を行ってございます。そちらの部会における分析結果を取りまとめた年次レポートにつきましては、部会の方で議論された後、委員の皆様には追って資料をお送りさせていただきたいと考えてございます。

それから、その他の3つ目でございますけれども、今回の専門委員会についてでございます。第2回専門委員会につきましては、本年度の政策評価の実施状況を御報告するというところで、昨年度と同様になりますけれども、10月から11月頃に開催したいと考えております。委員の皆様には、後日日程調整をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、今回の専門委員会の公開、非公開につきまして、可能であればこの場で決定いただければと考えております。

以上です。

○吉野専門委員長 今事務局から大きく分けて3点、その他で御説明ありましたけれども、1点目、2点目について御質問があれば受け付けたいと思います。

「なし」の声

○吉野専門委員長 3点目の今最後にお話しになりました次回専門委員会の公開、非公開の件については、事務局からその背景について御説明をお願いします。

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 次回の委員会の議題であります本年度の政策評価の実施状況についての内容ですけれども、昨年度と同様ですが、今回第1回と同様に意思決定の過程における審議でありまして、未成熟な情報を多く扱うということと、県議会への報告が済んでいない段階でありますので、次回につきましても非公開での開催とさせていただきますと考えております。

○吉野専門委員長 御説明あったとおり未成熟かつ県議会の報告前というタイミングということですので、非公開で進めたいという県からの御意見ですけれども、この形でよろしいでしょうか。

「はい」の声

○吉野専門委員長 では、今のお話のあったとおり次回10月ないし11月の会議についても非公開で行うということにしたいと思います。

そのほか御質問よろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 それでは、私の方で進行する議事は以上でございますので、以下の進行については事務局の方にお返ししたいと思います。

3 閉 会

○高橋政策企画部政策企画課評価課長 それでは、以上をもちまして令和3年度第1回岩手県政策評価専門委員会を終了いたしたいと思います。本日はありがとうございました。